

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873100545		
法人名	医療法人高寿会		
事業所名	グループホーム高寿		
所在地	川西市久代3丁目19番1号		
自己評価作成日	平成29年2月8日	評価結果市町村受理日	平成29年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者の方に穏やかに落ち着いた暮らしの実現を目指し、その方らしい生活をして頂けるように、施設環境を整え、利用者の健康面・安全に配慮した介護に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後14年目を迎えるが、内外装とも開設当時の美しさを保っている。事業所のリビングは、1階から3階まで3方向から自然光が入って明るい。「家庭的な環境。穏やかな生活。意思と人格の尊重。利用者の立場に立ったサービス」を理念に掲げ、介護の現場に精通した管理者と共に、職員は日々のケアに努めている。母体である医療法人のバックアップによる手厚い医療連携が、高齢化と重度化が進む利用者を支えている。運営推進会議には複数の民生委員が出席しており、地域の情報を得ながら、事業所として地域とふれあう努力を重ねている。本年1月に新しいケアマネが着任し、新鮮な視点で業務の改善に着手しているのも好材料である。理念に掲げている「地域連携」を実現する為に、地域密着型事業所としての更なる努力に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員との話し合いをし、意見を共有し実践に繋げている。	理念の他に、【みんなで気をつけること】として、「人権尊重・挨拶・身だしなみ・言葉使い。利用者との信頼関係を大切に。チームとしての自覚と迅速な対応。明るく・楽しく・はつらつと。利用者が主役」などの目標を貼り出し、朝礼時などに確認して職員同士で反省している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的にはできていないが、少しずつではあるが地域との交流を行なっている(地域の小学生との交流会)	毎年、地域のだんじりや神輿が事業所の玄関前までやって来るのを、利用者が楽しみにしている。歌声、楽器演奏など、地域からのボランティアも増えつつある。地域住民向けに「健康講座」などを開催する案を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分とはいえないも地域の方に理解して頂いているがさらに努めて行く		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、サービスの報告や現状報告を行ない、サービスの向上に活かすよう努力している	事業所1階のリビングで、隔月に開催している。家族、地区代表者、地域包括、民生委員が毎回参加し、市の担当者が参加する事も有る。活発な意見交換をしており、意見を汲んで、自治会に加入する方向で働きかけている。議事録は全家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今後、事業所が市町村に積極的に連携、協力関係を築ける様に取り組んで行く	市の担当部署とは関係性を築いている。指導を受けた際には、管理者が法人の担当者と共に出向いて説明した。今年度は出席できなかった地域の事業所連絡会に、新年度からはケアマネが出席する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では身体拘束はしないケア実践。やむを得ず必要な場合は、同意書を交わし取り組んでいる	車椅子利用者の転落防止用の安全ベルトなど、拘束に該当する器具を、現在、複数の利用者に対して使用している。使用内容をケアプランに反映しているが、使用の開始や継続の是非を検討した記録は残していない。	常態化しない様にカンファレンスで検討し、家族からの承諾とともに記録に残して頂きたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に心掛けており、発生・防止に努めている	事業所の目標である「人格尊重」については特に配慮している。職員が上から目線に対応した際など、管理者は気付いた都度注意している。職員のストレス軽減策として、管理者は普段から声を掛けながら対話に努めている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長、ケアマネージャーが主に会議などで話し合いの機会を設けて行く様に努め事案があれば報告有り	現在、制度を活用している利用者が複数あるが、後見人が親族であり、職員は事例として学べていない。契約時に、制度についての案内と資料の準備は出来ていない。	地域包括の協力で資料を準備し、職員と家族向けの研修を企画されたらどうだろうか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して不明点が無いように説明し、納得を頂いて契約の履行をしている	契約前に見学をして貰っている。利用者と家族がおやつの時間まで一緒に過ごしたり、体験宿泊をする場合もある。契約時の説明の際に質問が多いのは、利用者が重度化した場合の事業所の対応であるが、「重度化、終末期ケア対応指針」を説明し、納得のうえでの契約となっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族様面会時又は連絡を取り、コミュニケーションが図れる様に心掛けている	家族会は設けていないし事業所便りも発行していないが、家族からの要望や意見は、クリスマス会や敬老の日の開催時や、来訪の都度聴いている。家族からの多くの意見を汲み、利用者の脚力を保持する為に外出の機会を増やした。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員との意見交換が出来る様心掛けている	ミーティングで出された意見や要望に答えている。キッチンを担当する職員を考慮したケアの体制の見直し、重度化した利用者に対する夜間の見回り回数などで反映している。職員の負荷が軽減できる様、浴室へのリフト装置の取り付けを法人本部に要望中である。	職員の身体的な負荷を軽減して本来のケアに傾注出来る様、引き続き法人へ要望して頂きたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部へ職員が向上心を持って働けるように、職場環境・条件の整備依頼に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修等を受けれる環境に努める		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会等に何度か参加し情報交流の機会有り、職員に報告している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めに家族やケアマネージャーとの連携をとり、ご本人様の意向に対応する様に努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会に来られた時に日常の様子をお伝えし、要望も聞くように努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の思いをくみ取り、見極めながらサービスを受けて頂けるように努めている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという気持ちで、お互いに必要な存在であるように築いている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは連絡を取り、一緒に支えていく関係を築くよう努めている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂けるように努めている	利用者によって家族の来訪頻度は異なるが、毎週複数回来訪する家族もある。近隣の知り合いや、昔からの飲み友達が毎月訪問する例もあり、事業所として挨拶する事で再来を支援している。地域の「ふれあい広場」へ出掛け、ボランティアとも馴染みになっている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけフロアーで過ごし、ご利用者同士が関わられるように努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了すると関係は切れている現状ですが、ご相談があれば支援するよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし方を把握し、本人本位に対応するよう努めている	コミュニケーションが難しい利用者が多いが、「諾否」に関しては意向を汲み取れている。利用者の表情や普段の仕草から意向を読み、その内容を介護計画に盛り込むなどして、職員間で情報を共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様やケアマネージャーの情報収集し、状態の把握に努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様にあった生活が出来る様に支援し、現在の状況把握に努めている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をケアプランに取り入れ見直しをし、職員は介護計画に添い対応している	各ユニットの職員が全ての利用者のケアをする体制である。体位交換や嚥下状態などの変化に応じて、隔週から毎月の間隔で、管理者、職員、ケアマネがカンファレンスしてモニタリングしている。介護計画は3ヶ月毎にケアマネが作成している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、日々の個別記録をスタッフ間で共有し、チェックしている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様とも対応を共有し、現状のサービスに取り組むよう取り組んでいる		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が少ない為、交流の場を広める必要がある		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所経営なので、往診、又状況により検査がある為、支援できている	利用者、家族の意向を優先のうえ、かかりつけ医を選択してもらっている。多数は、母体法人の往診医を利用している。個別に家族が付き添い専門医を受診している人もいる。状態変化時や服薬変更等の場合は、家族に報告し、必要に応じて、主治医から家族に説明がある。訪問歯科の利用も多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医に往診してもらい、医師と訪問看護師が連携し、適切な受診、看護は出来ている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の情報交換はできている	利用者の日々の状態変化を注視し、早めの主治医への連絡、対応により入院回避につながっている。食事の際の状態変化を察知し、速やかな処置により、入院回避につながった事例があった。入院時は、職員が見舞い、安心してもらえるよう声かけする。早期退院の受け入れ体制を整備している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師と担当者(ケアマネージャー・施設長等)で会議をし、ケアのあり方等をご家族様と話し合う	今年度、事例があった。利用者の急な状態低下があり、1週間ほどで眠るような最後となった。家族がしばらく寄り添い、最後を看取ることができた。職員は、家族の不安を取り除き、安心して寄り添えるよう声をかけ、見守りに努めた。現在、ほとんどが事業所でのターミナルを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医より職員への指導有り		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害に備え消防署より、避難訓練等指導あり	夜間想定を含む訓練を年2回行っている。消防署立ち合いの下、避難経路の確認を行い、職員が危機意識を持って対応できるよう、実践に即した訓練を行っている。近隣との協力体制については、今後の課題である。	まずは、運営推進会議を通じて、地域代表者に訓練の見学を依頼してみたいかがか。

自己	者第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者の方への配慮を忘れず優しい言葉かけ、敬意や思いを大切にしている。	高齢者を敬う気持ちを忘れず、利用者一人ひとりに寄り添い、その人に応じた声かけに努めている。往診時の内診や体調の悪い時は居室で、必要のない場合はリビングで診察している。失禁時は、居室にさりげなく誘導し、お手伝いさせてもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るようにスタッフから話しかけをし働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活ペースは特に大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問理美容を利用して頂いたり、服装は季節に合った服装を着てもらおうようにしている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒にするのは難しいが、食事介助の時にコミュニケーションをとり食事が楽しくなるようにしている	委託業者から調理済みの物が届き、事業所で湯煎し、盛り付け、事業所で炊飯している。食事担当職員を配置し、個々に応じた食事形態を用意している。職員が介助に入ることが多いが、できるだけ自分の力、ペースで食べてもらうようにしている。職員は一緒に食していない。	利用者も一緒に作って食べる時間は、より利用者の楽しみにつながるのではないだろうか。手作りおやつのお時間をできるだけ設けることを検討できないだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた方法(ミキサー食・トロミ)で食事をして頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月2回口腔ケア、歯科往診あります。訪問歯科の指導の下、スタッフがケアしている		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ車椅子の方もトイレ排泄する気持ち良さを感じてもらえるよう支援している	車椅子のおむつ使用の人は、居室でおむつをはずし、トイレで排泄してもらうなど、2人介助で行っている。多くは、職員がその人の排泄パターンを参考に、さりげない声かけ、誘導を行っている。時間を決めて、或いは利用者からの意思表示を察知し、その都度支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日チェックし水分摂取等を試み、予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を決めて、体調の様子など観察しながら入浴して頂いている	重度化が進み一般浴の利用が困難となり、多くは、シャワー浴で、体調が悪い場合は清拭で対応している。少なくとも週2回は入ってもらえるよう2人介助で行っている。利用者からの希望や浮腫等がある場合は、足浴を行い、気持ち良く過ごしてもらっている。	職員の負担軽減のためにも、リフト浴の設置等の検討を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムで日中を過ごし、夜間良く眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理を行ない、手渡し服用、確認を努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の喜びやお話をし気分転換出来る様努めている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様が殆ど車椅子を使用されている為、天候のいい日に近所を車椅子で出ている	利用者の体調を見て、近隣の公園や周辺、事業所の駐車場を散歩する。職員の買物ついでに、近くのコンビニに一緒に行くこともある。事業所横にある桜を見ながらお茶とおやつを食べるのが、利用者の恒例の楽しみとなっている。プランターで花を育てたり、水やりが気分転換になっている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様には金銭管理が無理な為、施設管理をしている。個々の預り金から個別に必要とされることがある際、使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は字を書ける利用者様が居ない為出来ない電話も本人様からの要望もない		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度などに気を配り、清潔保持に努めている	リビングの一角に和室を備え、三面とも窓があり、明るい。特に3階は、見晴しが良く開放感がある。和室との段差は無く、利用者は、時に横になることもある。洗濯物を干したり、職員の休憩にも使用されている。季節感ある手作り品が、さりげなく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で殆ど過ごされ、独りになりたい方はお部屋でのんびりされている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知が進み重度化されている方が殆どの為、安全性を優先している	職員手作りの木製のネームプレートが、ほのぼのとした雰囲気である。ベッド、クローゼット、ミニ洗面台が設置されている。テレビボードやラジオ、整理筆筒等が置かれ、飾られている家族の写真や記念の作品から、その人の暮らしがうかがわれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかる事を活かしています。安全面は常に考えスタッフ協力の下、その人らしく生活出来る様にしている		